

【配点】 ①・②・③・④・⑤・⑥ 各1点×36 その他 各4点×16

1 移 転 2 応 急 3 演 説 4 祝 賀 5 竹 馬

6 確 信 7 基 地 8 一 丸 9 永 久 10 専 門

11 梨 12 逆 転 13 往 復 14 高 価 15 天 災

2 じ っ と 2 そ っ く 3 て っ き 4 と っ ぷ り
(完答) (完答) (完答) (完答)

5 め っ き 6 や っ ぱ り
(完答) (完答)

3 イ 2 イ 3 エ 4 イ 5 ア

4 三 2 五 3 五 4 四 5 五

5 1 A エ B ア 2 イ 3 ふ っ う

6 1 A イ B ウ C ア

2 生 活 の 場 を 広 げ 、 子 孫 を 残 し 繁 栄
 す る と い う 目 的 。
(同意可)

3 I 二 II 風 ウ ・ エ 水 イ ・ カ 4 ウ 5 イ
(完答・順不動) (完答・順不動)

7 組 末
(完答)

2 人 間 の 足 を 洗 う こ と が で き て う れ
 し い 気 持 ち 。
(同意可)

3 冗 談 4 ウ 5 経 歴 6 ア 7 頼 り な い 8 本 当

① (漢字の書き取り)

1から10までは小5ベーシックのトレーニングテキスト、10から15までは小4ベーシックのトレーニングテキストにて出題されているものである。とはいえ小学校では5年生で学習する漢字もあるので易しくはない。復習テストで正解していたのに間違えたという場合は、時間をおいて見直しに取り組むようにするといいたいだろう。漢字を覚えるときにことばが表す様子やそのことばが使われる状況(じょうきょう)をイメージして覚えると定着した知識となりやすい。

② (和語)

小4ベーシックNo.38のトレーニングテキストで出題されていた。「○○り」の形になっていることは多い。目にしたときは意味や使い方も合わせて覚えていくようにしよう。

③ (主語)

主語を問う問題であったが、もちろん「述語」を先に見つけたいといけない。文節の終わりに「を・に・と・で・へ」のようなことばがついている場合は主語ではなく修飾語になるので気をつけよう。

④ (文節)

文節について知っておくとこれからの品詞の学習はもちろん、ぬきだし問題でどこまでぬきだせばよいかを見当づけたり、記述の問題の答えを読みやすくまとめたりするときに役に立ちます。3は「わたる」と「ときには」で分け、4は「なる」と「ようだ」を分けない。5は「見て」と「いた」を分け、「立ち上がる」は分けない。

⑤

1 A「聞」は意味を表す「耳」と、「モン」という読みがある「門」を組み合わせてできた字である。B「口」は口の形からできた字である。

2 目については同じ段落の後ろの方に、「その瞳には……憧れのバナナ様に対する復讐の光が宿っていた」と書かれており、(十)と(一)の入り交じった両面的な心情が感じられる。

3 幼い頃は(十)の気持ちしか持っていないが、その気持ちが強すぎるために、後になって(十)と(一)の入り交じった両面的な心情になってしまうのである。「父親」が「バナナをふつうに食べるということはできない」と同じく「私」も「恋愛」に対して自然にふるまえなくなってしまうているのだろう。

⑥

1 接続語のあなうめ問題では前後の内容をおさえ、どのようなつながりになっているのかを判断しなければならぬ。目的が問われているが、まさに直前に「……ため」という表現があるので、ここを利用して答える。

2 I 本文の後ろから二つめの段落に「動物を利用するもうひとつの方法は種子を甘い果実でおおい、動物がそれをとって食べることによって種子を遠くへ分散させるという方法です」と書いている。さらに前を見ると、「鉤状の刺によって動物の毛につき、動物が移動することで種子もいっしょに遠くへ運んでもらう」と書いている。

II 風 本文四段落目に「風を利用する場合は……」とあるので、ここに書いていることを使って答える。「さらに」という接続語の前後に「種子は軽くなければなりません」「翼がついていれば、より遠くに飛ぶことができるでしょう」と書いている。

水 本文五段落目に「水の力を利用する場合は……」とあるので、ここに書いていることを使って答える。「まず水に浮くということが必要です」「さらに……種子は強くなければなりません」と書いている。

4 「思いもつかない」とあるので、おどろいていることがわかる。

5 アメリカ大陸発見で知られるコロンブスが、大陸発見などだれにでもできると評された際に、それでは卵を立ててみよと周囲の人たちに言い、だれ一人立てることができなかった後で、卵の端をつぶして立ててみせたという逸話からできたことばとされている。アは「釈迦に説法」、ウは「弘法も筆の誤り」の意味である。

⑦

1 直後にある「足を洗う」は、本文中でも説明されている通り「モグちゃんの趣味」である。本当のところは、——線①がある段落の最後の文に書かれている。「俺」が「組織の人間を始末する」のである。

2 これからする「人間の足を洗う」は「モグちゃんの趣味」であり「好き」なことであるから「うれしい」気持ちになるとわかる。「ててて」という歩きかたにもうれしい気持ちも表れている。

3 「追われている組織から逃げたい」という「男」の依頼に、「俺」が「モグちゃんに足を洗わせ」、「もう追われることはない」と言ったことに対して「男」は「嘘だろ……?」とたずねたのだが、直後で「もちろん」③と答えている。さらにあとで説明されているが「足を洗うのはモグちゃんの趣味」であり解決手段ではない。なので答えは「嘘」に近い意味を持つ二字のことば「冗談」になる。

4 「狐につままれた」の意味を知らなくても文脈から、意外なことが起こって何が何だか分からず、ぼかんとしていることは読み取れるだろう。

5 刑事の依頼は「ある人間の経歴を洗って欲しい(調べて欲しい)」であった。

6 「ピュア」には「純なさま。純粹なさま」という意味がある。ここではややバカにした気持ちを感じられる。

7 「刑事」との初対面のところで、「なんだか頼りない風貌の男だ」と言っている。

8 ⑧の前までの「モグちゃん」の行動は趣味や遊びで、「モグちゃん」が本当に依頼に答えているわけではなかったとわかるが、⑧の前に「これは」とあるので、⑧には「モグちゃん」が本当に「俺」の依頼(期待)に答えてくれていることがわかることを表すことばがはいらるだろうと考えられる。「モグちゃんのマッサージにマッサージ効果はないが、こうしてもらおうと俺の心は洗われる」のは「本当」なのだ。答えは——線⑤の直後にある。

以上